

特42

879



この世に社儀の海見五火
百歩の如くもまの海見五火

渥見五火

舟を渡りて休む
舟を渡りて休む
舟を渡りて休む

舟を渡りて休む

舟を渡りて休む

舟を渡りて休む

舟を渡りて休む

舟を渡りて休む

舟を渡りて休む

舟を渡りて休む

舟を渡りて休む



川村久兵衛

舟を渡りて休む

舟を渡りて休む

舟を渡りて休む

三河の金一

田郎左門の本妻の國



有川小次郎と
後平一孝との
争ひ

七間小次郎の米穀と後送りに
殺せんとすとの事三河利右と
以て此度
一万石積
造
申自
各申
申自
申自
申自

三河の金一
有川小次郎と
後平一孝との
争ひ
三河の金一
有川小次郎と
後平一孝との
争ひ

七間小次郎の米穀と後送りに
殺せんとすとの事三河利右と
以て此度
一万石積
造
申自
各申
申自
申自
申自

浅野疾五郎

明石郎左門



三河の金一
有川小次郎と
後平一孝との
争ひ

大徳寺とては三河の仕立に
目録

明石郎左門
浅野疾五郎
三河の金一
有川小次郎と
後平一孝との
争ひ
大徳寺とては三河の仕立に
目録
三河の金一
有川小次郎と
後平一孝との
争ひ



尾野宗左衛門
 尾野宗左衛門の妻
 有川駿河

尾野宗左衛門の妻
 尾野宗左衛門の妻
 尾野宗左衛門の妻



有川駿河
 有川駿河の妻
 有川駿河

有川駿河の妻
 有川駿河の妻
 有川駿河の妻

○丹波守の御氣遣に成りしに
 備へて居るに
 八木を以て御氣遣に
 命ぜられたるに
 丹波守の御氣遣に
 命ぜられたるに
 丹波守の御氣遣に
 命ぜられたるに



○丹波守の御氣遣に
 命ぜられたるに
 丹波守の御氣遣に
 命ぜられたるに
 丹波守の御氣遣に
 命ぜられたるに
 丹波守の御氣遣に
 命ぜられたるに
 丹波守の御氣遣に
 命ぜられたるに

○丹波守の御氣遣に
 命ぜられたるに
 丹波守の御氣遣に
 命ぜられたるに
 丹波守の御氣遣に
 命ぜられたるに
 丹波守の御氣遣に
 命ぜられたるに



○丹波守の御氣遣に
 命ぜられたるに
 丹波守の御氣遣に
 命ぜられたるに
 丹波守の御氣遣に
 命ぜられたるに
 丹波守の御氣遣に
 命ぜられたるに
 丹波守の御氣遣に
 命ぜられたるに

丹波守

丹波守



○此の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、

幼く西勢の方

ひるほしに...

市原の徳兵衛

指しつけ申す

お徳兵衛

○三日月の影

栗山大膳とのいふ有るは

○此の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、

其方、
 其方、
 其方、
 其方、

○此の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、



○此の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、

其方、
 其方、
 其方、
 其方、

○此の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、

其方、
 其方、
 其方、
 其方、

○此の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、

○此の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、
 夫の如くは、



改易

橋本左内

橋本左内

橋本左内

橋本左内

橋本左内

橋本左内

橋本左内

橋本左内

橋本左内

橋本左内



橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本左内

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

橋本

○ 皇國の発展と繁栄を期す

陛下の御意に奉りて

お近の二人の御上の御意に奉りて

國政の善なる御上の御意に奉りて

陛下の御意に奉りて

陛下の御意に奉りて

陛下の御意に奉りて

陛下の御意に奉りて

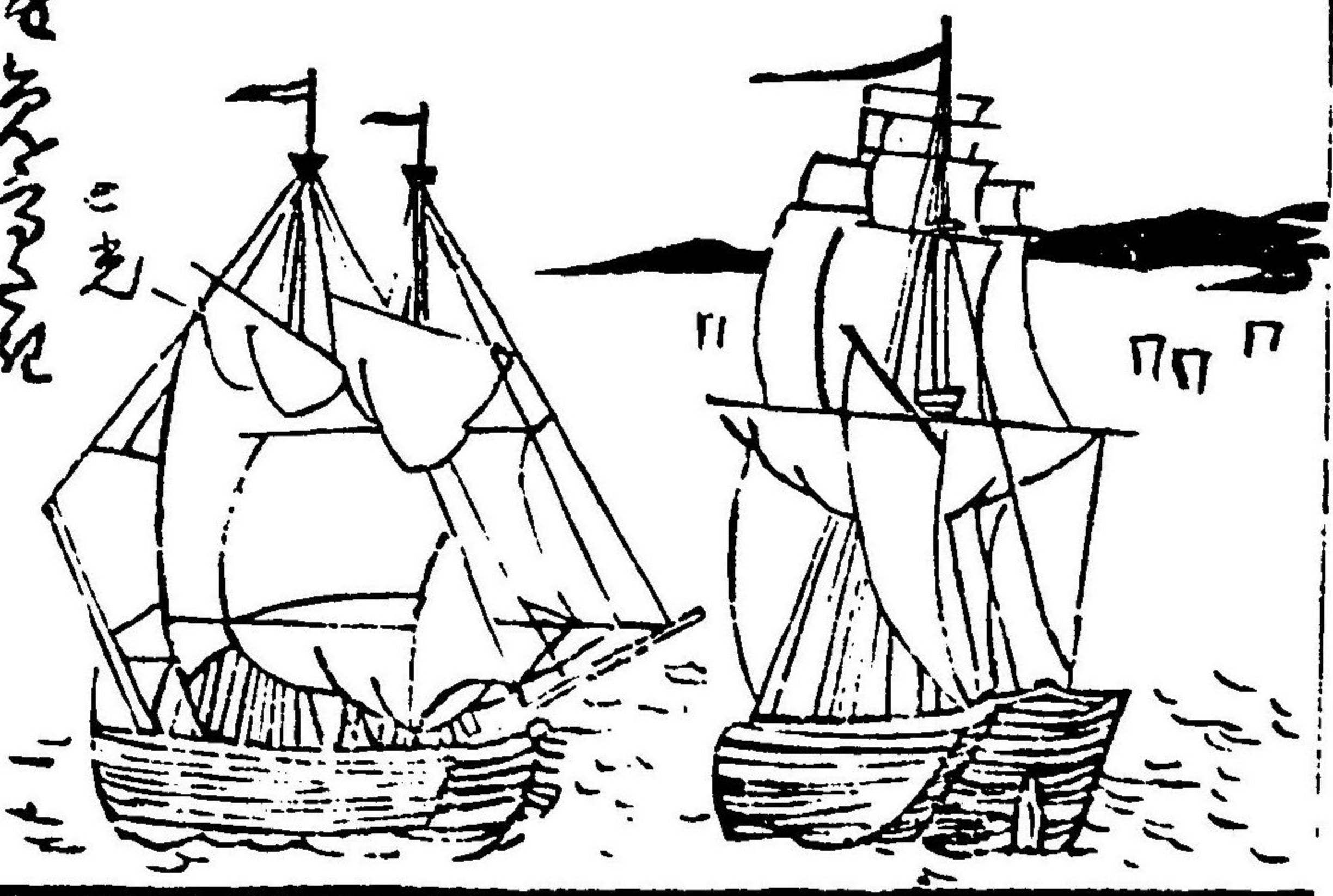
陛下の御意に奉りて

陛下の御意に奉りて

陛下の御意に奉りて

陛下の御意に奉りて

陛下の御意に奉りて



明治十二年一月廿二日御届

價三圓五厘

編輯者

東京日本橋区本町二番地

出版人

大西庄之助

